

月報 シオン山

2025年3月2日発行 (No414)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

.....

【月間聖句】

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを
信じる者は、死んでも生きる。

(ヨハネによる福音書11章25節b)

「宝物」

小田ひかり

私は幼い頃から讃美の歌声の中で育ってきました。生まれ故郷の鹿児島では父の開いた家庭集会で、5歳で移ってきた小倉では教会学校で、中学生からは西南女学院とシオン山教会で、また家庭でも姉との二重唱、時には二人の兄を加えて四重唱を楽しんだりして、讃美歌を歌うのは何と楽しいことかを実感して育ってきました。

大学生の時に青木佳代子さんに誘われて聖楽研究会合唱団に加わり、モーツァルト、ヘンデル、バッハ等の素晴らしい曲に出会い、各地での演奏会に出かけ、何よりも人々との出会いの中で貴重な体験をさせて頂きました。その時のメンバーである上記の青木(林田)さん、安武さん、守田さんには今でも変わらない気持のまま教会で親しくお目にかかれることが感謝です。

合唱団では当時、暗譜で歌うのが当然となっていましたので、原曲のラテン語・ドイツ語・英語等で覚えて歌っていました。長いオラトリオ、ミサ曲や受難曲等はとても大変でしたし、リハーサルから演奏会までを数時間立ちっぱなしもあって、よく頑張れたものだ、若さというのは凄いと今では懐かしく感心します。

若い頃に暗譜までして楽しんだ宝物の曲は、今までの人生の中で本当に私を支え、ふと心に浮かぶと弱い自分を慰め励ましてくれます。その中でヘンデルの『メサイア』は特に思い出があります。私は20代後半1年間、米国の大学での研修とそのキャンパス内の教会に通いました。聖歌隊にも加わってクリスマス時には『メサイア』を歌うことができましたが、すべて暗譜している強みで、他のメンバーよりも自信をもって歌えて幸せでした。またシオン山教会元牧師の荒瀬昇先生が天に召される少し前に、入院中の到津病院にお別れに伺った時、枕元で流れていたのが『メサイア全曲』でした。私が病室に入った時には丁度「ハレルヤ」がスタートしたので、もうお話のできない先生としばらくの間、その時をご一緒できたことにとても感動したことを覚えています。

『メサイア』では第3部に「If God Be For Us, Who Can Be Against Us?」という曲があります。私は高校で英語を担当していたので、「for と against」をこのように明確に示している聖句(ローマ8:31～)に感銘をうけ、しかもソプラノの歌声で「もし神が私達に【for/味方で・賛成して】であるならば、誰が【against/敵である・対抗して】できるだろうか?」を、繰り返し美しく歌われるのを聴いて、胸が一杯になったこともあります。本当に励まされる曲で大好きな宝物の一曲です。

私はこれからも、心に響く音楽や讃美歌を宝物として、感謝して過ごしていきたいと願っているところです。